

## 「月刊島民」 中之島

6日のレポートに書いた大阪市立中央図書館に行った折に、写真の「月刊島民 中之島」というフリーペーパーを手にした。「島民」とは何かに関心をもった。日曜日に冊子をペラペラめくると、なかなか面白く、つい読みすすんだ。

表紙に「橋を渡る人の『街事情』マガジン」Vol.75とあるから、数年前から発行されているようだ。中之島はMAPのように、堂島川と土佐堀川にはさまれた細長い地区をさす。中之島については、11月7日のレポートでも紹介している。あらためて中之島境界をみると、美術館をはじめ、じつに多くの文化芸術関係の施設が並んでいる。MAPには、「橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな『島民』です!」と書かれている。



特集「島民とウイスキー」の10月1日号をみていこう。「朝の連ドラで注目される竹鶴正孝は、大阪の酒造会社からスコットランド留学し、日本にウイスキー醸造技術をもたらしたことから、国産ウイスキー誕生を語るうえで欠かせない人物だ。彼が北海道の余市でニッカウヰスキーを創業するまで、実は中之島境界では男たちのドラマが繰り返られていた。」

マガジンでは竹鶴のほか、現在は堂島浜に本社があり、島民企業として知られるサントリーを創業した鳥井信治郎、「竹鶴の夢、ニッカ創業を支援」として芝川又四郎、「ニッカを支え、経営の何たるかを指南した船場商人の友情」として加賀正太郎を取りあげている。



中之島といえば、大学院の頃に「中之島まつり」により地域活性化をめざす住民運動が注目された。今回、偶然にも「島民」という言葉から、中之島の情報発信を知ることができ興味深いものがあつた。それと朝の連ドラは見えてないが、「マッサン」が中之島と関わりがあることも知ることができた。「マッサン」の総集編でも見てみたくなった。

(2014年12月8日)